

青少年教育指導者等の研修事業

「自然体験活動指導者養成事業 全体指導者・補助指導者養成研修会」

[主催] 国立阿蘇青少年交流の家
[後援] 九州各県・政令指定都市教育委員会
[期間] 平成22年8月23日(月)～25日(水) 2泊3日
[参加者] 教職員2名, 社会教育関係者4名, 一般9名, 学生20名 計35名

【性別】 男性20名, 女性15名

【県別内訳】 熊本県31名, 福岡県3名, 沖縄県1名

[講師] 熊本大学教育学部 教授 吉田 道雄 氏
 熊本市キャンプ協会 理事長 寺崎 真治 氏
 日本赤十字社熊本県支部 指導員 緒方みゆき 氏
 熊本県ネイチャーゲーム協会 理事 西田 秀美 氏
 阿蘇グリーンストック 環境教育担当 永原 彰子 氏
 国立阿蘇青少年交流の家 企画指導専門職



ネイチャーゲームの様子

1 趣 旨

「小学校の1週間の体験活動」において, 教育効果の高い自然体験活動・生活体験活動の機会を提供するために, プログラム企画立案の助言, 活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言, 事業評価の助言などを行う指導者を養成する。

2 目 標

- (1) 子どもたちに自然体験活動が必要であることを理解する。
- (2) 自然体験活動の基礎的な知識・技術を身につける。
- (3) プログラム作成の基本的な視点を理解する。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

	6:00			7:00			8:00			9:00			10:00			11:00			12:00			13:00			14:00			15:00			16:00			17:00			18:00			19:00			20:00			21:00			22:00			23:00		
8/23 (月)				受付			開会 行事			自然体験 活動の技術			教育課程と 体験活動の 関連性①			昼食			学校教育における 体験活動の意義			安全管理① (救急救命法)			教育課程と 体験活動の 関連性②			夕食・休憩			体験活動の指導法 (草原活用した指導法)			入浴			就寝 準備			就寝														
8/24 (火)	起床・ 洗面			集い			朝食・ 準備			移動			安全管理② (登山中の安全管理)			昼食			体験活動の指導法 (ネイチャーゲーム)			自然体験活動の技術 (ロープワーク・野外炊飯)			入浴			プログラムの 企画・立案・作成			情報 交換会			就寝 準備			就寝																	
8/25 (水)	起床・ 洗面			集い			朝食・ 身支度			準備			プログラムの 企画・立案・ 作成			プログラムの 発表・評価			閉会 行事																																			

(2) 目標達成のための手立て

① 指導体制の充実

ア 大学や関係機関等からの専門的な講師の招聘

体験活動の意義や救命救急法等、それぞれの講義・演習等において、その分野の専門家に講師を依頼し、体験活動の必要性や基礎的な知識や技能を学ぶことができるようにした。

イ 事前研修をいかしたプログラム

企画指導専門職の資質向上のため、「社団法人 日本キャンプ協会」「NPO法人 自然体験活動推進協議会」へ研修に行き、そこで得た知識や指導法等を本事業の「安全管理②」「プログラムの企画・立案」にいかした。また、参加者が理解しやすく、細かな疑問まで対応できるよう、数名での指導体制にした。



救命救急法

② プログラム内容の充実

ア フィールドワークやワークショップ等を取り入れたプログラム

参加者が意欲的に活動に取り組み、また講習会終了後、いろいろな機会学んだことを実践できるよう、具体的な体験的な活動を提供した。また、いろいろな立場での意見や情報の交換ができるよう、教職員や社会教育関係者、一般、学生等、様々な職種でのグループ編成をした。

イ 地域の特色を生かしたプログラム

大自然の中での体験活動の素晴らしさを感じることを、また自然の恵みを味わえるよう、阿蘇の特徴（阿蘇五岳・大草原・特産物）を生かしたプログラムを作成した。



プログラムの企画・立案

★自然体験活動の技能：阿蘇の特産物を使った野外炊飯

（メニュー：高菜飯・だご汁・阿蘇の野菜サラダ）

★体験活動の指導法：阿蘇の大草原を生かした活動の実践例の紹介

（阿蘇草原再生への取組）

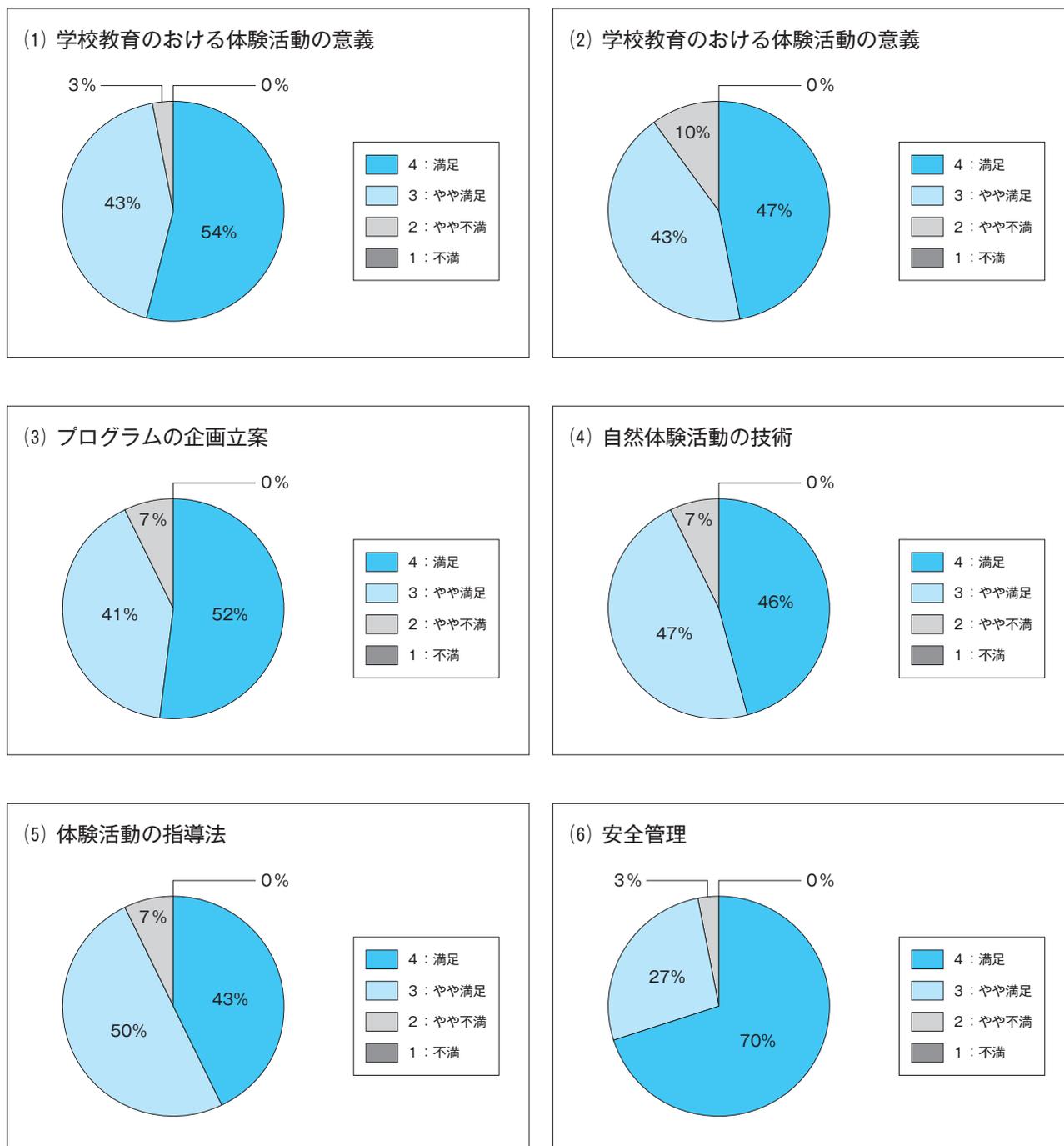
★安全管理 ②：登山現地研修を実施し、緊急事態を想定しての対処法を行った。

【想定1】登山者が捻挫をしてしまった。効果的なテーピングの巻き方は、どうすればよいのか。

【想定2】登山者が急にうずくまり、動けなくなった。同行者は、どのような対応をすればよいのか。

4 結果

アンケート調査の結果は次のとおりである。



【参加の声】（アンケート記述）

- 子どもたちを指導できるよう、また学校に提案できるよう頑張りたい。
- 自然体験活動を通して、今まで知らなかったことをたくさん学べた。
- プログラムの企画立案では指導者が数名いたので、質問にすぐ対応してもらったり、また細かくアドバイスをもらったりしていいプログラムが作成できた。
- グループ活動ではいろいろな意見を出し合えて、とても有意義だった。
- 教員としても大切な研修なので、学校職員の参加者も増えてほしい。
- ものづくりのプログラムがあったらよかった。

5 成果と課題

(1) 成果

① 大学やキャンプ協会等から講師を招き、ワークショップやフィールドワーク等の体験活動とおした研修が多かったため、具体的で分かりやすく、充実したものとなった。

(グラフ1～6, アンケート記述)

② 地域の方と学校教員・社会教育施設職員でのグループワーク等とおして、お互いの立場で様々な考えや情報を伝え合い、研修を深めることができた。(アンケート記述)

③ 本施設職員で分担して講義を行ったことにより、職員自身が自然体験活動に関わる事前研修を行い、質を高めるとともに、それをプログラムの中に生かすことができた。(グラフ3, 6, アンケート記述)

④ 地域の特色を生かしたプログラムを実施したことにより、身近にある自然の大切さと子どもたちに自然体験活動の必要性を理解できた。(グラフ4, 5, 6 アンケート記述)

⑤ 安全管理において、場面を想定した研修を取り入れたことにより、より緊迫感があり、充実したものとなった。

(グラフ6, アンケート記述)



特産物を使っての野外調理

(2) 課題

① 広報の工夫

ア 九州各県からの参加者を募るため、各県教育委員会や関係団体等と更に連携していく必要がある。また、新学習指導要領に「体験活動の充実」が提示されていることから、教員の参加を増やすためにも、開催期日や主なプログラム内容等、早めの情報提供をしていかなければならない。

② 地域素材をいかしたプログラムの更なる開発

ア 登山中の緊急事態発生時の対処法は初めての試みで、実施方法等は見直しすべき点が見つかった。今後、改善し更にプログラムの充実に努めたい。

イ 現在、阿蘇市全体で「阿蘇草原再生」に取り組んでいる。次年度はこの取組を大きくアピールし、自然の偉大さを更に理解できるようにしたい。

③ 本施設職員の更なる質の向上

ア 企画指導専門職として更なる質の向上を努めるためにも、自然体験活動や安全指導等の研修会に参加したり情報を収集したりして自身の研修を深めるよう心がける。



登山中の緊急事態発生時の対応



草原をいかした活動紹介

企画指導専門職 小菌 正臣